

低学年国語科学習指導案

大分大学教育学部 附属小学校

1. 単元名 聴いて楽しい！ 読んで楽しい！自分の大好きなむかし話を6年生にひろうしよう
共通学習材：「天にのぼったおげやさん」（教育出版1年下）
並行読書材：昔話に関する本
聴いて楽しい！ 読んで楽しい！自分の大好きなむかし話をお家の人にひろうしよう
共通学習材：「かさこじぞう」（教育出版2年下）
並行読書材：昔話に関する本

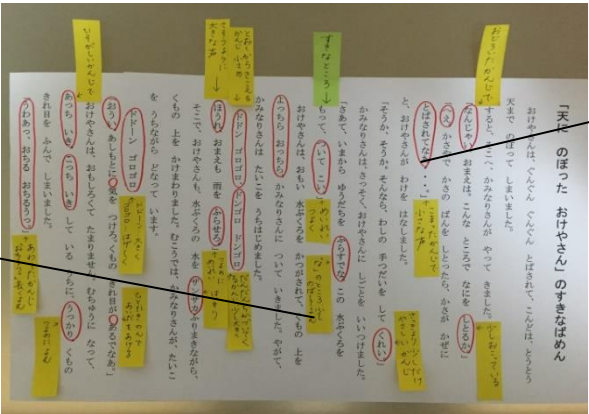
2. 単元の言語活動とその特徴

(1) 言語活動

本単元の言語活動として、低学年の読むことの言語活動例「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」を「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)と関連付けて具体化し、昔話のもつ独特の口調や温かみある言い回しの面白さが伝わるような音読をする活動を位置づけた。子どもたちは大好きな昔話や伝承に関する本の文の中から語り口調に特徴や温かみある言い回しのある部分に着目し、その面白さが伝わる読み方を工夫しながら読んでいくという言語活動である。

(2) 言語活動の特徴（以下1年生ベースで作成）

本単元で子どもたちが6年生に楽しく聴いてもらえるような音読をするための工夫をする活動は次のような構造を持っている。



独特な口調や言い回しを中心に読み方を工夫したい言葉を見つける
【伝国イ（ウ）】

音読の工夫を考える
・場面の様子
・語句のまとめり、言葉の響き 【Cーア】

昔話や伝承などの本や文章などの読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。
【伝国ア（ア）】

子どもたちは自分が好きだと思う部分から昔話に見られる独特な口調や言い回しのある言葉に着目し、読み方の工夫を考えていく。こうして読みの工夫をこらした本文を見直して、楽しみながら読む構造となっている。

(3) 言語活動とねらいの結びつき

子どもたちは自分の大好きな昔話を音読で披露するために、本の文の中から語り口調に特徴や温かみある言い回しのある部分に着目し、その面白さが伝わる読み方を工夫しながら読んでいく。この時に本単元がねらう「C読むこと」の指導事項「ア 語のまとめりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」が達成できると考えた。並行読書材については昔話の本を教室内に設置したり、昔話の紹介や読み聞かせをし、古くから伝わるお話に興味を持たせ、その面白さに気づかせたりすることで、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」より「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 昔話や民話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」との関連が図ることができると考えた。

3. 単元について

(1) 児童について

「C読むこと」の指導事項、「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」に関わって、1学期に「音読劇を6年生に紹介しよう」（共通学習材「おおきな かぶ」）で、「うんとこしょ どっこいしょ」という言葉の繰り返しや、文章全体のリズムのよさによる面白さを感じながら活動することができた。この学習から言葉にはまとまりがあることへの気づきや声の強弱やアクセントをつけて読むことの面白さを実感することはできているが、言葉の持つ響きや言葉の面白さを感じながら音読することには至っていない。そこで、本単元においては「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と関連させ、昔話の中にある独特な口調や温かい言い回しの面白さに気づかせ、音読の工夫を考えながら楽しんで読む力をつけていたいと考えている。

(2) 教材及び単元構想について

①教材について

本単元の共通学習材として扱う「天にのぼったおけやさん」は、「むかし むかし」という言葉で始まり、次から次へとストーリーが展開する中で、児童が主人公の「おけやさん」になったつもりで楽しんで読み進めることができる昔話である。語りのもつ独特の口調や言い回しの面白さに気づき、自分の好きな場面を友だちと読み合ったり聞き合ったりすることで、子どもたちは日頃とは違う言葉の使い方や表現に魅力や面白さに引き付けられることが期待できる作品であると言える。並行読書材として、独特な口調や言い回しのある昔話の本を選び、学級図書として準備しておくようにする。

②単元構想について

本単元に入る前の学習として、昔話の読み聞かせに取り組み、古くから伝わるお話に興味を持たせていく。その際、時代や昔の言葉から関連した独特の口調や言い回しがある昔話（並行読書材）を教室に配置しておき、日常的に子どもが読書できる環境にしておく。

第一次では、教師が選んだ昔話を例に出し、この話の面白いところや好きな場面について話し合う。本に興味を持たせたところで、教師の大好きな昔話の中で特に好きな場面の文章を紹介し、音読の工夫を凝らした昔話を披露してみせる。その後感想を出し合わせ、どのような読み方の工夫があったのか見つけさせる。その際、聴き手側として「聴いて楽しい」（どきどき、わくわくする・イメージが広がる）という視点や、読み手側として「読んで楽しい」（面白い口調・言い回し・声の大きさ・声色・繰り返し等の工夫・人物になりきる等）という視点を見つけさせる。単に音読するだけでなく、昔話の面白さを実感できるような視点を明確にしながら、自分たちもやってみたいという意欲を持たせ、学習計画を立てて見通しを持つようにする。

第二次では、共通学習材「天にのぼったおけやさん」を読み、好きなところやおもしろいところを選び、想像しながら音読の工夫を本文に加えさせていく。その時に頭だけで工夫を考えたり書きこんだりするのではなく、実際に声に出して音読し、語のまとまりや響きを感じながらイメージを広げられるようにする。それぞれの工夫を試したり、確認したりしながら工夫をした根拠も自分の言葉で交流できるようにする。それらを通して音読を工夫する楽しさを十分に味あわせたいと考えている。また、共通学習材と並行読書材とを交互に進行していく。

第三次では、自分で決めた6年生に聞かせたいお話のすべての場面の音読の工夫を考え、練習に入る。第二次の学習で得た音読の工夫を活かして、工夫を考えられるようにしていく。その後同じ本を選んだ友だちと発表をし合い、音読の工夫がよく表れている点や聴いていて面白さを感じた点について交流する。そして、再度自分の選んだ本を振り返り、もっと取り入れたい工夫を考えながら練習に取り組みさせていく。そして、6年生に大好きな昔話を披露し、カードに感想を書いてもらうことによって、相手に自分の音読の工夫が伝わる喜びや学びの成果を実感させていきたい。

(3) 指導の工夫について

本単元では、共通学習材「天にのぼったおけやさん」での学びが、並行読書材である自分の選んだ大好きな本で活かせるように、第二次において交互に学習の展開を図っていく。その際、楽しみながら読み方の工夫ができるように、適宜本文の読み方の工夫を出し合わせ面白さを共有させていきたいと考えている。また、声の強弱だけでなく、声色・速さ・間の取り方にも注目させ、一人ひとりの読みの違いやその面白さを実感させ、自分も取り入れたいという思いを持たせられるように

していきたい。そのためにも、ペアや同じ場面を選んだ者同士、班の仲間と読み合ったり、様々な友だちと感想を交流したりしながら学びを進めていくようにする。友だちと学び合う中で、認められる喜びや友だちのよい姿を手本にして取り入れようとするだけでなく協働的な学びの姿勢も培っていききたいと考えている。

4. 単元の指導目標

- 昔話や伝承に興味を持ち、音読の楽しさに気づき、進んで聞いたり読んだりすることができる。
【関心・意欲・態度】
- 読み聞かせに大好きな昔話の好きな場面の様子が伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
【読むことア】
- 昔話や伝承などの言語文化に触れ、話の面白さや独特の言い回しなどに気づき、親しむことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
昔話や伝承に興味を持ち、進んで聞いたり読んだりしようとしている。	好きな場面の様子が伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔Cーア〕	昔話や伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。〔伝国ア（ア）〕 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。 〔伝国イ（ウ）〕

6. 指導と評価計画（10時間扱い）1年ベースで作成していますが、本日の2年生分も組み込んでいます。

時	時	○主な学習活動	評価（評価方法）※留意点
	事前	○ジオジオの冠に昔話の読み聞かせをしてもらい、古くから伝わるお話に興味を持たせておく。 ○事前に昔話に関する本を学級図書に設置しておく。	
第一次	1 本時① （2年生）	○教師による音読で昔話の楽しさを伝える読み方を工夫した昔話を披露してみせる。言葉の面白さや読み方の工夫を独特な口調と言い回しから気づかせ、「聴いて楽しい」「読んで楽しい」という単元の目的や学ぶ意味と関連づけながら共通理解をするとともに教師の音読例を手がかりにして学習計画を立てる。 ㊟学習計画を立てよう。 ㊞教師の音読例	【関】大好きな昔話を音読で披露したいという思いを持ち、これからの学習に臨もうとしている。（発言・ふり返り） ※今まで読んだり、読み聞かせで聞いたりした昔話をもとに、昔話の面白さや好きなどを想起させ、これからの学習に主体的に取り組めるようにする。 ※現在とは違う特徴的な言葉を中心に、読みの工夫だけではなく、読み手の楽しさも伝えられるように読む。その際、声色・声の強弱・速さ・間のとり方などの工夫を見つけられるようにする。 ※読み聞かせの対象を6年生にする。

	2	<p>○ 6年生に大好きな昔話を披露するという最終目標を確認し、6年生が聴いて楽しくなるためにどの話を選んだらよいか考えながら本を選ぶ。</p> <p>㊦ 6年生に聴いて楽しんでもらえる大好きな昔話を披露するために、お気に入りの本を選ぼう。</p>	<p>【関】 昔話に興味を持ち、進んで本を選ぶようとしている。(選書の様子・ふり返り)</p> <p>※各自で6年生に聴かせたい大好きな1冊を選べるように事前に声をかけておき、なかなか選べそうにない子どもは一緒に選ぶようにする。</p>
第二次	3	<p>〈共通教材：天にのぼったおけやさん〉</p> <p>○ 「天にのぼったおけやさん」を読み、音読で6年生に楽しさを伝えられるぴったりの場面を選び、その場面の中で工夫してみたい言葉を見つけて丸をつける。</p> <p>㊦ 「天にのぼったおけやさん」の楽しさを音読で伝えられるぴったりの場面を選び、読み方を工夫したい言葉を見つけよう。</p> <p>㊧ 場面わけの条件（人・時間・場所）</p>	<p>【伝国イ(ウ)】 語句のまとまりに気をつけながら独特な口調や言い回しのある言葉を見つけている。(教科書への書き込み)</p> <p>※語句のまとまりや独特な口調、言い回しは目で読んで見慣れない言い回しに着目するのではなく、実際に声に出して読むことを繰り返す中で気づかせるようにする。その中で読み方を工夫したい言葉に赤で丸をつけさせていく。</p> <p>※家庭学習と連動させ、好きな場面を見つけながら音読をさせておく。</p> <p>※場面わけの条件は、一つの目安とし、子どもの「ここを読みたい」という思いを大切に選ばせるようにする。</p>
	4 本時② (1年生)	<p>〈共通教材：天にのぼったおけやさん〉</p> <p>○ 「天にのぼったおけやさん」の好きな場面を6年生に楽しさを伝えられる音読の工夫を考え、友だちと発表し合う。</p> <p>㊦ 6年生に楽しく聴いてもらえるように工夫して音読しよう。</p> <p>㊧ 教師の音読例（読み方の工夫）・「天にのぼったおけやさん」本文</p>	<p>【Cーア】 語句のまとまりや昔話の特徴的な口調に着目し、工夫して音読している。(教科書への付箋、交流・ふり返り)</p> <p>※第一時間目に確認した読みの工夫を参考に実際に声に出して読みながら活動させる。その際に、ペアになって読みや工夫を聞き合い、お互いの学びを十さんできるようにする。</p> <p>※自分の考えた工夫を付箋に書いて貼り付けさせておく。</p>

第二次	5	<p>〈それぞれが選んだ本〉</p> <p>○「自分の選んだ本」を読み、音読で6年生に楽しさを伝えられるぴったりの場面を選び、その場面の中で工夫してみたい言葉を見つけて丸をつける。</p> <p>㊦「自分の選んだ本」の楽しさを、音読で伝えられるぴったりの場面を選び、その場面の中で工夫してみたい言葉を見つけよう。</p> <p>㊧場面わけの条件（人・時間・場所）</p>	<p>【伝国イ(ウ)】語句のまとまりに気をつけながら独特な口調や言い回しのある言葉を見つけている。(本文への書き込み)</p> <p>※「天にのぼったおけやさん」での学びを想起させながら、ごくのまとまりや独特な口調、言い回しについて実際に声を出して読むことを繰り返す中で気づかせるようにする。その中で、読み方を工夫したい言葉に赤で丸をつけさせていくようにする。</p> <p>※家庭学習と連動させ、好きな場面を見つけながら音読をさせておく。</p> <p>※場面わけの条件は、一つの目安とし、子どもの「ここを読みたい」という思いを大切に選ばせるようにする。</p>
	6 本時③ (1年生)	<p>〈それぞれが選んだ本〉</p> <p>○「自分の選んだ本」の好きな場面を6年生に楽しさを伝えられる音読の工夫を考え、友だちと発表し合う。</p> <p>㊦6年生に楽しく聴いてもらえるように工夫して読もう。</p> <p>㊧教師の音読例（読み方の工夫）・「天にのぼったおけやさん」本文、前時に見つけた工夫</p>	<p>【C-ア】語句のまとまりや昔話の特徴的な口調に着目し、工夫して音読している。</p> <p>(教科書への付箋、交流・ふり返り)</p> <p>※第一時間目に確認した読みの工夫を参考に実際に声に出して読みながら活動させる。その際に、ペアになって読みや工夫を聞き合い、お互いの学びを十さんできるようにする。</p> <p>※「天にのぼったおけやさん」での読み方の工夫を想起させ参考にできるようにする。</p> <p>※自分の考えた工夫を付箋に書いて貼り付けさせておく。</p>

第三次	7	<p>〈それぞれが選んだ本〉</p> <p>○他の場面でも読み方の工夫を考え音読練習をする。</p> <p>㊤選んだ本の読み方を工夫し、音読練習をしよう。</p> <p>㊤教師の音読例（読み方の工夫） 前時までの振り返り</p>	<p>【Cーア】言葉の面白さが伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をしている。 (本文への付箋・振り返り)</p> <p>※第1時間目に確認した読みの工夫を参考に実際に声に出して読みながら活動させる。</p> <p>※これまでの振り返りや読み方の工夫を想起させ参考にできるようにする。</p> <p>※自分の考えた工夫は付箋に書いて貼り付けさせておく。</p>
第三次	8	<p>〈それぞれが選んだ本〉</p> <p>○ペアの友だちと音読の工夫を見つけながら聴き合い、さらに自分の選んだ本の読み方の工夫を考える。</p> <p>㊤選んだ本の読み方を披露し合い、さらに工夫したいところをいっけよう。</p> <p>㊤読み方の工夫の観点</p>	<p>【Cーア】場面の様子がよく伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読の工夫を見直している。 (本文への付箋・音読)</p> <p>※これまでの学習で見つけた読みの工夫を参考に実際に声に出して読みながら活動させる。その際にペアになってお互いの読みの工夫</p>
	9	<p>〈それぞれが選んだ本〉</p> <p>○本番通りのリハーサルをグループの友だちと行い、良かったことについて交流する。</p> <p>㊤6年生に聞いてもらうためのリハーサルをしよう。</p> <p>㊤読み方の工夫の観点</p>	<p>【Cーア】場面の様子がよく伝わるように、語句のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて自分の考えた音読の工夫をしながら繰り返し読む練習をしている。 (交流・振り返り)</p>
第三次	10	<p>〈それぞれの選んだ本〉</p> <p>○6年生に自分が選んだ大好きな昔話を披露する。</p> <p>○終わったら6年生に感想を書いてもらい、自分たちの学習の成果を振り返る。</p> <p>㊤自分たちで考えた音読の工夫を生かして、6年生に大好きな昔話を披露しよう。</p>	<p>【伝国ア(ア)】6年生にお話の面白さが伝わるように文や語句の読み方を工夫し、大好きな昔話を披露している。 (発表・振り返り)</p>